

2024年5月27日アナリスト向け決算説明会 質疑応答（2024年3月期決算）

- Q. 25年3月期の計画は、従来の計画と比べて保守的な計画ではないように感じますが、計画の立て方の方針変更や上振れ余地があるのかを教えてください。
- A. 計画の立て方の方針の変更はありません。これまでは、コロナ等のリスクを考えながら計画を設定しておりましたが、25年3月期はそのようなリスクはない前提です。但し、為替と鋼材変動についてはリスクと考えています。鋼材変動はお客様から回収する前提ではありますが、大きく振れた際はリスクと考えています。
- 上振れ余地については、HDD（ハードディスク）と半導体プロセス部品について、市場が順調に回復することを前提として計画を立てているため、大きな上振れ余地はないと現状は考えています。労務費の高騰分については、お客様と交渉をしており、回収ができれば、多少上振れの余地があると考えています。
- Q. シート事業は減収の計画ですが、お客様の台数と比較すると保守的にみられているのか教えてください。
- A. タイでの景気後退による自動車生産台数の減少や、24年3月期に開発費の回収で10億円単位の一時的な収益の上振れ要因等があったため、減収の計画となっています。
- Q. 中計の各製品の受注状況や考え方について教えてください。
- A. モーターコアと金属基板については、ほとんどが車の部品ですので、26年中計においては、ある程度先が見えている状況です。半導体プロセス部品については、技術的な優位性がありますので、市場の回復以上に伸びを見込んでおります。懸架ばね事業とシート事業は、劇的に数量が伸びることはない想定され、お客様に寄り添い、ビジネスを確保して、収益を上げていく努力をしていきます。懸架ばね事業は、北米でのコストをお客様から回収しつつありますが、北米での労働市場が特異な状況であるため、生産性が上がっておりません。その為、生産性を上げて収益を安定させ、まずは北米の損益をゼロにすることを目標としています。
- Q. 懸架ばね事業の収益性について教えてください。今回、24年3月期の実績の増減要因を見ますと、売価が大きく改善していますので、その背景を教えてください。
- A. 利益最大化プロジェクトで収益を良くすることを目標に努力してきたことの成果と考えています。モデルチェンジによる新規受注品は収益性を重視して営業活動をした結果であります。既存品は、当社がコントロールできない経済変動分の回収や不採算品の売価改善が出来たためです。
- Q. 市場では車の電動化がトーンダウンしていますが、ニッパツのモーターコアの販売見通しへの影響を教えてください。また、投資回収の考え方についても教えてください。
- A. 26中計では特に見通しの変更はありません。しかし、中国では、日系OEMメーカー

が苦戦されているので、動向を注視しており、次のアクションを考えていきます。

投資回収については計画より3年～5年では回収できるものではないと考えており、その想定から変更はありません。

Q. DDSの24年3月期第4四半期は既に回復基調にあるのかを教えてください。

A. 24年3月期第3四半期から回復基調となっております。

Q. DDSの中計では24年3月期から27年3月期にかけて売上増を74%計画されていますが、背景を教えてください。

A. HDDの台数以上にサスペンションの伸びを見込んでおり、サスペンションのシェアを上げることと付加価値を高めて単価を上げていくことも計画しております。また、半導体検査装置部品であるマイクロコンタクトの売上拡大を目指しています。

Q. キャッシュアウトの投資2,500億円をより詳細に教えてください。また、どのようなリターンを期待しているのかを教えてください。

A. まずは事業をしっかりと成長させていくことが一番です。事業投資は成長事業と位置付けている半導体プロセス部品、金属基板、モーターコアは当然ですが、しっかり続けていく既存事業においても必要な投資は行います。それ以外に、課題解決をしなければいけないカーボンニュートラルは社会の一員として積極的に取り組んでいきます。また、今後は人手不足が予想されるので、人材を確保するとともに、DXで生産性、効率を上げて、人的リソースを最大限活用することを考えています。研究開発投資については、将来の当社のビジネスの種でありますので、積極的に投資していきます。

その上で、しっかりと成長することが、安定的に配当を上げていくことにつながり、株主様へ還元出来ると考えております。

Q. 3か年の設備投資について教えてください。

A. 設備投資は約1,500億円、減価償却費は約1,000億円です。設備投資は減価償却費以上を考えており、積極的な投資を実施してまいります。

以上